

# 旭労災病院ニュース

病院情報誌

第119号

平成27年10月1日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8885

尾張旭市平字甲北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

## スキンケアと食物アレルギー

皮膚科部長 森 誉子



アトピー性皮膚炎は、特に乳幼児期に食物アレルギーを合併しやすいことがよく知られていますが、その実態には不明な点も多いのが実情です。最近、経皮感作が食物アレルギーをもたらすのではないかとという考え方がでてきて、スキンケアの重要性が再認識されています。

食物アレルギーを合併したアトピー性皮膚炎の乳児は、しばしば離乳食を始める前から食物 IgE が陽性を示します。その時期にすでに食物に感作される理由としては、経胎盤感作と経母乳感作が想定されていました。ところが、2008年に小児の食物アレルギーの分野から、食物抗原が経皮的に体内に入ると感作され、経口摂取すると、むしろ消化管で免疫寛容がもたらされるとする二重抗原暴露仮説が発表されました。ピーナッツアレルギーの小児の母親の妊娠中の食事内容、臍帯血中の特異的 IgE、幼児期の食事内容、スキンケアなどについて調査した結果、ピーナッツオイル入りのスキンケア製品の使用における危険率が有意に高いことが報告されています。ピーナッツアレルギーを含む可能性のあるピーナッツオイル入りのスキンケア製品の使用が経皮的な抗原暴露となって、食物アレルギーとしてのピーナッツアレルギーの発症リスクを上昇させると考察しています。さらに、イスラエルなど幼少期からピーナッツの摂食をしている国のほうが、幼少期のピーナッツ除去を推奨するイギリスやアメリカに比べて、ピーナッツアレルギーの有病率が低いということにも言及しています。ピーナッツを幼少期よりたくさん与える国のほうがピーナッツアレルギーの有病率が低いことを示し、経口投与が免疫寛容を誘導することを示唆しています。

社会的に大きな問題となった加水分解小麦含有石鹼による小麦アレルギーの発症は、食物抗原が経皮感作されることを示しました。旧「茶のしずく石鹼」に含まれたグルバール 19S という加水分解小麦末が、皮膚や粘膜から体の中に繰り返し入ることで、一部の人にアレルギーの抗体ができて、小麦を含む製品を食べたあとに、特に運動した時に蕁麻疹や呼吸困難、ショックなどのアレルギー症状を引き起こした症例です。

経胎盤感作や経母乳感作が否定されたわけではありませんが、ハイリスク児への食物アレルギー予防に関するアメリカの最新の指針では、母親が妊娠中や授乳中に食事制限をすることを推奨せず、とくに医学的理由がなければ、全ての乳児に4~6ヶ月まで母乳栄養を推奨しています。また、固形食物の摂取制限は4~6ヶ月を超えて遅らせるべきではなく、この時期にはアレルギーになりうる食物も導入してもよいと書かれています。

乳児期からスキンケアを励行し、皮膚炎の悪化を防ぐことで、食物アレルギーやその後のアレルギーマーチの進行を防げる可能性が示唆されています。

# 慢性腎臓病教育入院パスについて



腎臓内科部長 西尾 尊江

我が国の慢性腎臓病（CKD）患者は1300万人を超えており、また透析患者も30万人を超えています。末期腎不全（ESRD）は患者自身のQOLに著しく影響を及ぼすだけでなく、透析医療は1ヶ月に一人当たり約40万円の医療費がかかり、我が国の医療費の増加の大きな一因ともなっています。

CKD患者が末期腎不全に至らないためには、早期発見と腎保護のための包括的介入が重要になりますが、そのなかでも食事療法や生活指導が他の疾患に比べより重要です。また完治する疾患でなく、最終的には末期腎不全に至る方もおり、精神的ケアも大切です。

2013年7月より腎臓内科常勤となりまして以来、保存的治療強化のための教育入院を行って参りましたが、この度クリニカルパスを作成し、より多職種が協力して介入できる内容といたしました。

当院の特徴としましては、新たに教育用パンフレットを作成、字もフォントサイズ20という大きさと、高齢者や糖尿病にて視力の低下がある方でも読みやすく、分かりやすくすることを心がけたこと、入院当日に多職種でカンファレンスを行い、入院中の教育目標を共有するようにしたことが挙げられます。

対象としては、CKDで8日間の入院に同意いただける方となります。

【スケジュール例（腎機能低下が進行している症例には療法選択の説明も追加します）】

	1日目 (火)	2日目 (水)	3日目 (木)	4日目 (金)	(土)	(日)	7日目 (月)	8日目 (火)
検査	胸部Xp	血液検査	蓄尿検査	腹部エコー			血液検査	
	心電図	尿検査	心エコー				尿検査	
	血ガス	腹部CT	頸部エコー					
教育	医師① CKD とは	医師② 検査に ついて	医師③ 腎保護・ 合併症管理	栄養指導			薬剤指導	
		看護① 血圧・ 体重測定		看護② 感染予防			看護③ フットケ ア・口腔ケア	
	多職種カンフ ァレンス							退院

当科では、今後とも病診連携を推進し、この地域でのCKD診療に貢献して参りたいと考えております。対象となります症例がありましたら是非ご紹介いただけますと幸いです。

なお、糖尿病合併CKDに関しては、木曜日午後「糖尿病透析予防外来」も行っております。外来で時間をかけ、看護師・栄養士とも協力し指導を行っております。外来での指導をご希望される方には是非こちらをご利用ください。

## ● 病診連携室連絡先 ●

フリーダイヤル 直通電話 0120-53-6196 ( 平日 8:15~19:00、土曜日 9:00~12:00 )

FAX 0120-53-8459

内科系当直ホットライン: 070-5442-5500 ( 平日 17:00~8:15 及び 土・日・祝 )

外科系当直ホットライン: 070-5444-6745 ( " " )